

第66回 男鹿駅伝競走大会イベントレポート（第6回：6区）

【第6区】

レースは残り2区間、終盤の6区へ。



6区：3.9km（戸賀出張所～八望台）



戸賀湾（写真提供：男鹿なび）

6区は、この駅伝最短区間で僅か4km弱しか距離はないが、短い距離にぎゅ〜っと中身の詰まった区間で、走り出してからすぐに戸賀湾に別れを告げ再び山岳コースの旧道に入っていく。最初の1km強だけで約100mの高低差があり、壁のように立ち上がるコースを選手は一気に駆け上がって行く。その後も八望台中継所に向けて上りは続き、最終的な高低差は実に180mに達する。距離が短いながらも4km14分間ひたすら上りに耐え続けなければならない密度の濃いコースであり、伴走の監督車もその急坂ゆえにアクセルを踏み込んでいないと止まってしまいそうなくらいだ。



八望台からの眺め（写真提供：男鹿なび）

今年 6 区を走るのは入社 6 年目の八木沢 直也である。栃木県出身で経理部管理課に在籍し、主な担当業務は年次計画策定と固定費、試験研究費の管理である。

高校時代から都道府県駅伝の代表にも選出され、早くから素質を開花させていたが、長い間故障に見舞われ、大学時代には膝にメスを入れている。そこから箱根を走りたい一心でひたすら諦めずに地道なリハビリを続け、大学 4 年時の箱根駅伝の最終メンバーに名を連ねるところまで復調したものの、結果として箱根駅伝出場は叶わなかった。

地道にコツコツと努力ができてマシメ且つ才能ある選手であり、前田監督の信頼も厚いが、線の細さにより度々故障を繰り返し、順調な選手生活を送れていないのが何とも歯がゆい・・・



急坂を軽快に上ってくる八木沢

八木沢は松谷からタスキを受けると高低差 100m の坂を軽快な足取りで駆け上がっていく。

距離が短いということは、「ペース配分を考えて・・・」なんて悠長に走ることは許されず、走りをセーブし結果的に不完全燃焼だったなどということにならぬよう思い切って走るのみである。

宿命なのか、30 秒前方を走る学生チームは八木沢の母校であり、ここで闘争心に火がつかないわけではなく、八木沢は後輩選手の背中を追って攻めの姿勢を忘れずに差を詰めていく。



母校の後輩を追う八木沢

走り出した時には33秒もの差があったが、箱根駅伝の5区をテレビで見ていると分かる通り、上り区間で前を行く選手の足が止まった時というのは驚くほど一気に差が縮まってくる。

前を行く選手の姿が大きくなってくると、俄然、監督車の車中も活気を帯びて盛り上がる。

前田監督は給水を渡しながら熱の入ったゲキを飛ばして八木沢を鼓舞し、八木沢も苦しみの表情ながら必死に声援に応える走りを披露する。前をいく母校の後輩も抜かれまいと必死にペースを上げ、その差が広がったり縮まったり・・・この時点でタイム差は10秒を切り、抜けそうで抜けない見応えある意地の張り合いは中継所まで続いていく。



6区 八木沢⇒7区 松本の新電元最後のタスキレー



八木沢さん、あとは任せて下さい！！

監督車は異様な熱気に包まれ、興奮状態でゲキだか怒号だか分からない、切れ目の無い激しい声援を八木沢に送る。

八木沢の足も既に限界に達しているが、中継所までは残り僅か、頼むから抜いてくれ・・・

しかし、八望台に上り切る最後の急坂は甘くなかった。互いに死力を尽くした戦いは終わりを迎え、後輩に6秒まで肉薄する素晴らしい走りだったが、追いつくには至らなかった。

結果は文句なしの区間賞、初出場でアンカーを務める新人 松本のために、5区で途切れたかに思われたチームのムードを再び勢いづける快走になった。

が、その一方で八木沢は監督車の激しい声援に満身創痍、中継所に倒れ込むと、しばしの間、立ち上がることもできなかった・・・無理させてすまなかったね。。

【6区成績】一般の部

距離 : 3.9km

順位 : 1/39位 (大学を含む全体順位 : 3/53位)

タイム : 13分59秒 (目標タイム : 14分30秒)

以 上

※ 次回はいよいよ最終回、イベントレポート (第7回 : 7区) へ続く